

研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1. 2. 3. 4.				
(著書(和文)) 1. 2. 3. 4.				
(学術論文(欧文)) 1. English Education for Medical and Dental Students Language Skills Necessary for Rapport	共著	2022年1月	『Selected Papers of Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics』 The 25th Conference (2021) pp. 9-17	歯学部におけるコミュニケーション能力の育成は、患者とのラポール形成のために必要不可欠である。近年ではコミュニケーション技術も治療の一部とも考えられるようになってきている。病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている。今回はこのような地域で医療を目指す学生への1年生の英語教育の実践を獨協医科大学と共に考察した。 出野由紀子, 坂本洋子 総9ページ (査読有)
2. English Curriculum Reform for Internationalization at Kanagawa Dental University —Toward joint development of ESP with Dokkyo Medical University —	共著	2022年2月	『神奈川歯科大学学 会雑誌』57巻1号 pp. 62-66	神奈川歯科大学, 獨協医科大学とも国際色豊かな地域に所在するため, 病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている。なぜなら, コミュニケーション能力の育成は医療このような地域で医療を目指す学生への英語教育の実践をESPを用いた教授法の効果と共に考察した。 出野由紀子, 坂本洋子 総6ページ (査読有)

3. Zoom “breakout room” for first-year students — For the first year of university education—	共著	2022年3月	『神奈川歯科大学基礎科学論集』39 pp. 62-66	初めてのオンライン授業での学生の状況や教材の報告を行った。 出野由紀子, 坂本洋子 総6ページ (査読無)
4. Lesson Plans for Effective Foreign Language Activities in Elementary School — For Lower Grades and For Upper Grades—	単著	2022年3月	『神奈川歯科大学基礎科学論集』39 pp. 22-26	異文化理解を促進するために小学校外国語活動のレッスンプランを考案した。総6ページ (査読無)
5. Medical Students’ Internationalization by Using Machine Translation	共著	2023年4月	『Selected Papers of Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics.』 The 26th Conference (2022) (no page number)	機械翻訳は、現在進化し続けている。そして、これからも進化し続けるであろう。この機械を使いこなすことにより、英語だけでなく、他の多くの外国語を使つてのコミュニケーションが可能となるので、その前段階として学生の意識調査をし、その分析を行った。 出野由紀子, 坂本洋子 総6ページ (査読有)
(学術論文(和文)) 1. 幼稚園の中の情操教育—仏教幼稚園の観察から	単著	2004年3月	『早稲田教育評論』第18巻第1号 pp. 73-83	仏教教育を積極的に取り組んでいる幼稚園を事例として、その中で保育者がいかに子どもと接しているかの現場状況を明らかにするとともに、幼稚園と保育園を一元にすることの経済的意義を考察することを目的とした。具体的には幼保を一元にすることに対する消極的意見を考察した。 総11ページ (査読有)

<p>2. 幼稚園教育における 仏教系保育の実践例 とその特質に関する 一考察</p>	<p>単著</p>	<p>2005年3月</p>	<p>『早稲田教育評論』 第19巻第1号 pp. 123-136</p>	<p>小学校との接続期として 極めて重要な役割をはた す幼稚園での教育—5領 域の中の「人間関係」— を保育理論の観点から考 察し、次に、実際の保育 現場（仏教系幼稚園）で どのような活動が行われ ているについて、保育者 の視点から考察する。ま た幼稚園と保育園を一元 にすることの経済的意義 を考察することも目的と した。 総14ページ（査読有）</p>
<p>3. リベラルアーツとし ての観光資源：横須 賀 — 地域に根付く 大学の在り方を模索 する —</p>	<p>単著</p>	<p>2022年9月</p>	<p>『日本国際観光学会 自由論集』 pp. 58-62</p>	<p>地域に根差した大学にお けるリベラルアーツの可 能性を模索した。 総6ページ（査読無）</p>
<p>(紀要論文)</p> <p>1. アメリカ的経験論— William Jamesのプ ラグマティズム</p>	<p>単著</p>	<p>2003年3月</p>	<p>『早稲田大学教育学 会, 研究大会紀要』 第4号 pp. 31-37</p>	<p>William Jamesの目指した 新しい経験論の特殊性の 検討を通してJamesの哲学 的思想と同一視される 「根本的経験論」を考察 することによって、アメ リカの経済的発展の実質 を明らかにすることを目 的とした。アメリカの経 済的発展にプラグマティ ズムの思想がどのように 影響を与えたかを考察し た。 総7ページ（査読無）</p>
<p>2. Isabel, Emma— 二人の女性 アメリカとフランス の社会情勢</p>	<p>単著</p>	<p>2003年9月</p>	<p>『早稲田大学大学院 教育学研究科紀要』 11-1号 pp. 45-54</p>	<p>Henry JamesとGustave Flaubertとの出会いに焦 点をあてつつ、同時代ア メリカジャーナリズムを 賑わせていたHenry James, Sr.のJamesに対す る影響を考察した。よっ てThe Portrait of a Lady製作にあたりJamesが 暗黙のうちにアメリカの 社会情勢の影響を受け、 また作品中に描写してい たことを解き明かすこと を目的とした。 総10ページ（査読有）</p>

3. Henry James “Paste”と Maupassant	単著	2004年3月	『早稲田大学大学院 教育学研究科紀要』 11-2号 pp. 213-224	Henry Jamesが暗に示して しまった現在から過去への 評価を、Jamesの“Paste” と Maupassantの“La Parure” ，“Les Bijoux”の比較検討から 読み解くことによって、流動 的な時間観、そして当時のア メリカの経済発展について考 察することを目的とした。具 体的にはアメリカとフランス の両国の金銭に対する価値 観の相違を考察した。 総11ページ（査読有）
4. アメリカにおける多 文化教育とアジア系 アメリカ人の英語教 育	共著	2004年3月	『早稲田大学教育学 会研究大会紀要』 第4号 担当 pp. 99-102	家庭においては女の子であ ることによって、また社会に おいては中国人であること によって二重の差別を受けた Kingstonの書く作品が、『 多文化教育』実現の場であ る講義でどのように読まれ 受容されているか、またア メリカの更なる経済変化に ともない、それらがどう 変容していくのかを考察 することを目的とした。 出野由紀子，杉本香織， 石川聡 (査読無)
5. Henry James, <i>The Wings of The Dove</i> —The Wings of Luxury	単著	2004年9月	『早稲田大学大学院 教育学研究科紀要』 12-1号 pp. 99-113	Henry James, <i>The Wings of The Dove</i> 中に見られる イギリスとアメリカの政治 的描写を、当時の両国の 経済的社会的情勢から読み 解くことを目的とした。権 力と富を持つアメリカ娘と 、名誉と屋号は持つが財が ないイギリス娘の葛藤から 両国の関係性から考察し た。 総15ページ（査読有）

<p>6. Henry James, <i>The Wings of The Dove</i> —Drawing a comparison between British society and New-born society</p>	<p>単著</p>	<p>2005年3月</p>	<p>『早稲田大学大学院 教育学研究科紀要』 12-2号 pp. 201-213</p>	<p>Henry Jamesの<i>The Wings of The Dove</i>の中に見られるイギリスとアメリカの描写を比較検討することによって、世紀末のアメリカ経済的・社会的情勢を考察することを目的とした。具体的には、物質的豊かさすべてを手に入れつつも、精神的には満たされていないアメリカ娘が、イタリアで出会うものすべてに深い感銘を受けている様子を、アメリカ経済の発展と照らし合わせつつ考察した。総13ページ（査読有）</p>
<p>7. 仏教系幼稚園における情操教育</p>	<p>単著</p>	<p>2005年3月</p>	<p>早稲田大学教育学会 研究大会紀要 第6号 pp. 117-123</p>	<p>仏教教育を積極的に取り組んでいる幼稚園を事例として、その中で保育者がいかに子どもと接しているかの現場状況を明らかにしつつ、同時に、情操教育における、幼稚園と保育園の意義を考察することにより、幼保一元論の制度的意義と法的位置付けについて検討することを目的とした。総7ページ（査読有）</p>
<p>8. Henry JamesとWilliam James—『抑圧』を考察する—</p>	<p>単著</p>	<p>2005年9月</p>	<p>『早稲田大学大学院 教育学研究科紀要』 13-1号 pp. 201-212</p>	<p>主にジャーナリズムの研究対象とされるJames家の内なる葛藤を具体的に考察し、それがいかなるかたちでHenry Jamesの中に蓄積されたのかを研究することによって、世紀末のアメリカの揺れを経済的状况と共に考察することを目的とした。具体的には、メディアの過剰報道等々の問題にも触れつつ、情報産業がいかにしてアメリカを現在の不動な地位までひっぱり上げたのかを考察した。総12ページ（査読有）</p>

9. 中学生のTOEICに関する認識と知識	単著	2012年3月	『立教新座中学校・高等学校研究紀要』41号 pp. 15-22	TOEICに対する期待は社会人のみならず学生の間でも年々増す傾向にある。中でも中学生・高校生のTOEICに対する興味や関心は、ここ数年で急速に伸びてきている。この論文では中学校の英語の授業のみでどの程度TOEICの問題を網羅できるのかを調査実際に中学生にBridgeを説いてもらい、その結果からTOEICの基礎知識が中学校レベルにあることを考察することを目的とする。 総8ページ（査読無）
10. Henry James, <i>The Wings of The Dove</i> —in comparison with <i>The Portrait of A Lady</i> —	単著	2012年3月	『立教新座中学校・高等学校研究紀要』41号 pp. 23-32	Henry Jamesの <i>The Wings of The Dove</i> の中に見られるイギリスとアメリカの描写を他の作品と比較検討することによって、世紀末のアメリカ経済的・社会的情勢を考察することを目的とした。具体的には、物質的豊かさすべてを手に入れつつも、精神的には満たされていないアメリカ娘が、ヨーロッパで出会うものすべからどのような影響をうけるかを、アメリカ経済の発展と照らし合わせつつ考察した。 総10ページ（査読無）
11. アクティヴ・ラーニングによる内的動機づけ —英語必修科目のクラス運営を通して—	単著	2015年8月	『大東文化大学環境創造学部紀要』20号 pp. 55-62	ボトムアップに焦点を合わせた授業には限界があると考え、そして視点を変え、英語が世界的に使われているという現状から、リメディアル学生にも、グローバルに関心を持たせるという目標（international curiosityの養成）からトップダウンでの動機づけで授業を展開することにした実践報告。 総8ページ（査読無）

12. Henry James の国際的テーマ小説における女性の描写比較： <i>The Wings of the Dove, The Portrait of A Lady</i>	単著	2018年3月	『聖徳大学大学院言語文化学会』 17号 pp. 29-40	Henry JamesのThe Wings of The Doveの中に登場するKateの視点からのイギリスとアメリカを考察することによって、世紀末のアメリカ経済的・社会的情勢を考察することを目的とした。 総12ページ（査読無）
13. 観光ビジネスコミュニケーション	単著	2019年4月	『東京立正短期大学紀要』 47号 pp. 51-58	英語を活用した観光ビジネスの授業のモデルプランを考案した。反転学習をベースにおき、アクティブラーニングによってコミュニケーション術を習得すると共に、国際社会で活躍できる人材育成を目指す授業内容となっている。 総8ページ（査読無）
14. JAL工場見学から学ぶホスピタリティ	単著	2020年4月	『東京立正短期大学紀要』 48号 pp. 26-31	アクティブラーニング週間に行われたJAL工場見学によって、学生のモチベーションがどのように変化し、学習への興味関心が高まったかについて考察することを目的とした。 総6ページ（査読無）
15. 韓国における英語教育	単著	2020年10月	『仙台青葉学院短期大学紀要』 12-1 pp. 45-51	日本、中国、韓国の国民が母国語と同レベルで英語を使うことができるようになれば、外交関係もよりより解決策へ向けて話し合いの場を設けることができるはずである。更に、この3国が共通語をもつことは国際社会にとっても有意義となるであろう。そのための方法を見出すために、韓国の英語教育の変遷を考察した。 総7ページ（査読有）

<p>16. 中国吉林省と上海における英語教育の比較検討</p>	<p>単著</p>	<p>2021年4月</p>	<p>『仙台青葉学院短期大学紀要』12-2 pp. 85-91</p>	<p>日本、中国、韓国が共通語をもつことは大学を選択する際の幅を広げ、またそのことによりアジアを代表する文化人が育ち、アメリカと対等に英語で議論することができるようになることは、国際社会にとっても有意義となるであろう。そのための方法を見出すための考察の一つとして、民族性の強い吉林省と国際色の強い上海の英語教育を比較した。 総7ページ（査読有）</p>
<p>17. 進化する機械翻訳に対応する大学1年生の授業開発—ライティング指導を中心に—</p>	<p>共著</p>	<p>2022年11月</p>	<p>『千葉商大紀要』60巻2号 pp. 1-15</p>	<p>近年急速に発達している機械翻訳を授業内でどのように扱うのかを検討することは語学の教員にとって急務である。進化する機械翻訳に対応する大学1年生の授業開発をライティング指導を中心に分析した。 酒井志延, 大勝裕史, 土屋佳雅里, 出野由紀子, 白土さゆり 総15ページ（査読有）</p>
<p>(辞書・翻訳書等)</p>				
<p>1.</p>				
<p>2.</p>				
<p>3.</p>				
<p>4.</p>				
<p>(報告書・会報等)</p>				
<p>1. アメリカの大学教育における多様性 (diversity) と多文化性 (multiculturality) を高める方策としてのアフーマティヴ・アクションの実態と問題点</p>	<p>共著</p>	<p>2005年5月</p>	<p>『平成15年度～平成16年度科学研究補助金 (基盤研究C-2) 研究結果報告書』 担当 pp. 9-11</p>	<p>バックキ判決 (The Bakke Case), ウェーバー判決 (The Weber Case), フリラブ対クラッツニック判決 (The Case of Fullilove v. Klutznick) などの判決をふまえて、アフーマティヴ・アクションの実態と今後の展望、またそれがアメリカ経済にどのような影響を及ぼすかについて検討した。具体的には、アフーマティヴ・アクションによってもたらされる一種の逆差別を考察した。 出野由紀子, 杉本香織 (査読無)</p>



<p>(国際学会発表)</p> <p>1. Motivational Effect of third language Japanese University Students</p>	<p>単著</p>	<p>2012年11月23日</p>	<p>3rd Conference of the International Association for Asia Pacific Studies</p> <p>Hong Kong</p>	<p>大学生の英語取得と第三言語との関係性をアンケート調査に基づき統計をとった。TOEICスコアでの分類から、高スコアの学生は中国語に興味を示し、低スコアの学生は韓国語に興味を示す傾向にあった。その後の習得状況と関連付けながら日本におけるアジア言語の関心度を考察した。</p>
<p>2. Third language Acquisition</p>	<p>単著</p>	<p>2013年5月25日</p>	<p>Korean Association Teaching English (KATE)</p> <p>Proceeding pp. 221-222</p> <p>Seoul</p>	<p>英語取得の状況と中国語・韓国語の習得状況を入門レベルの学生を中心にアンケート調査した。それらをもとに言語の習得状況と関連付けながら日本におけるアジア言語の関心度をアンケートの結果から考察した。</p>
<p>3. Motivation for Acquiring Third Language related to Second language</p>	<p>単著</p>	<p>2014年8月15日</p>	<p>International Association of Applied Linguistics (AILA)</p> <p>Proceeding p. 198</p> <p>Brisbane</p>	<p>大学生の英語取得と第三言語との関係性をアンケートに基づき調査し、その結果とTOEICスコアとの関係性を考察した。</p>
<p>4. Motivational Effect for acquiring third language- Chinese and Korean</p>	<p>単著</p>	<p>2014年8月30日</p>	<p>Asia TEFL</p> <p>Proceeding p. 193</p> <p>Kuching</p>	<p>英語取得の状況と中国語・韓国語の習得状況を入門レベルの学生を中心にアンケート調査した。それらをもとに英語の習得状況と関連付けながらアジア言語の習得の可能性を考察した。</p>
<p>5. The First-year English Education for Medical Student</p>	<p>単著</p>	<p>2021年7月2日</p>	<p>2021 Joint International Conference on ELT</p>	<p>病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている医療系大学の英語教育のあり方を検討した。またこのような地域で医療を目指す学生への1年生のためのESPによる英語教育の実践を考察した。</p>

<p>6. English Education for Medical and Dental Students—Language Skills Necessary for Rapport—</p>	<p>共著</p>	<p>2021年8月20日</p>	<p>Pan-Pacific Association of Applied Linguistics The 25th PAAL International Online Conference</p> <p>Proceeding p. 76</p>	<p>患者とのラポール形成のために必要不可欠なコミュニケーション能力の育成を外国語教育の観点から考察した。グローバル化が進む近年では英語コミュニケーションも治療の一環とも考えられるようになってきている。外国人が多い病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている。外国人が多い地域で医療を目指す全学年を対象とした英語教育の実践を考察した。 出野由紀子, 坂本洋子</p>
<p>7. Globalization of English Education for Medical Students to Foster Rapport</p>	<p>共著</p>	<p>2022年3月15日</p>	<p>The 56th RELC International Conference</p>	<p>日本の医療系大学においては、総授業時間数に対して専門分野への比重が重いことから、外国語学習の自律性を高める指導が十分にされているとは言い難く、教員が学習者側の意見を取り込みつつ、それについて時間をかけながら取りまとめ、かつ学習者の方向性を導いていく学習者参加型指導が不得意である傾向が見受けられる。これらの問題を解決ための方法論を分析した。 出野由紀子, 坂本洋子</p>
<p>8. Effective Use of Machine Translation for Medical Students Toward Internationalization</p>	<p>共著</p>	<p>2022年8月21日</p>	<p>Pan-Pacific Association of Applied Linguistics The 26th PAAL International Online Conference</p> <p>Proceeding pp. 45-46</p>	<p>日本の医療系大学においては、外国語教育は、外国語を習得してから使うという考え方であった。しかし、本研究で行なっている機械翻訳を使う言語教育は、外国語の習得と外国語を使うことを並行してやっという考え方である。この機械翻訳を使用した授業に対し、学生からアンケートをとり分析を行った。 出野由紀子, 坂本洋子</p>

(国内学会発表)				
1. Henry James <i>The Wings of a Dove</i> 論	単著	2003年12月14日	早稲田大学英語英文学会 2002年度大会	Henry Jamesの <i>The Wings of The Dove</i> の中に見られるアメリカの“dollar princess”描写を検討することによって、世紀末のアメリカの急速的経済発展をイギリスと比較することによって考察した。
2. William James “Radical Empiricism” —イギリス経験論との違いから	単著	2004年3月8日	早稲田大学教育学会 2004年度研究発表	William Jamesの目指した新しいプラグマティズムの特殊性の検討を通して、イギリスのそれとは対照的であるアメリカの経済的発展の実質を明らかにすることを目的とした。具体的にはロックの経験論とジェイムズの経験論を比較検討することによって、よりアメリカ的な思想を考察した。
3. Henry James “The Altar of the Dead” 論—Francois TruffautのLa Chambre Verteとの比較を通して	単著	2004年12月13日	早稲田大学英語英文学会 2002年度大会	フランスの映画監督フランソワ・トリフォールが作りあげた『緑の部屋』と原作であるJamesの『死者の祭壇』と比較することによって、フランスとアメリカの一次大戦の扱いの違いに言及した。参加したものと参加しなかったものの意識の重みを考察することによって、原作と映画の差異を明らかにした。
4. アメリカにおける多文化主義	共著	2005年3月6日	早稲田大学教育学会 2005年度研究発表	アフターマティヴ・アクションが含む問題点と課題点を考察することによって、アメリカの実態と今後の展望、また積極的優遇措置がアメリカ経済にどのような影響を及ぼすかについて検討した。具体的には、判決の違いを考察し、アフターマティヴ・アクションがもたらす逆差別について検討した。

5. 第3言語習得に関する動機付け	単著	2013年3月7日	日本リメディアル教育学会第2回関東甲信支部大会	英語習熟度の低い学生にアンケート調査を行い、英語以外の言語に興味を持つか、また新しい言語を学んだ際に英語に対する関心が変わるかをデータ化し分析する。これらのデータをもとに習熟度の低い学生への英語教育のあり方を考察した。
6. 第三言語習得に対する関心度と英語の習熟度との関係性	単著	2013年3月17日	語学教育エキスポ2013 大学英語教育学会	この調査の目的は、日本の大学生が英語以外の外国語にどのような興味を示し、またそれが英語の習得とどのように関係しているのかを考察することである。調査対象は大学二年生と三年生のTOEICのスコアが300点～400点100人、400点～500点100人、500点～600点50人ある。スコア別の学生を更にアンケートで『英語を好き』、『英語を嫌い』の2グループにわけ、英語以外で学んでみたい言語とその理由の調査アンケートを行った。
7. グローバルに意識を変えるためのトップダウンからのカタカナ利用	共著	2013年8月28日	日本リメディアル教育学会第9回全国大会 (課題セッション)	再履修クラスの学生の英語学習に対する意識を探るために70名に対して調査を実施し、英語に対して苦手意識を持っている学生の現状を細分化した。項目としては、Q1. 4技能について、好き嫌い、Q2. 4技能の活動への希望、Q3. 英語が苦手になった時期、なぜ苦手になったかのきっかけ、Q4. 将来社会人になったときの英語の必要性、Q5. 英語習得の希望的予測、Q6. 7. 洋画への関心度、の7項目とした。 山内真理， <u>出野由紀子</u> ，山本梓

8. リメディアル学生へのグローバル教育	単著	2013年12月7日	日本リメディアル学会第3回関東・甲信支部大会	リメディアル対象である学生の英語に対知る意識を回復するため、アンケートを実施し、語学教育に対する希望を調査した。その結果、いわゆる『グローバル化』には興味を示していたので、彼らの興味をひくトピックを題材としたリメディアル教材を作り授業で使用後、学生の意識がどのように変わったかを調査した。
9. リメディアル学生へのカタカナを使用した授業開発	単著	2013年12月14日	第131回外国語メディア学会関東支部研究大会	リメディアル学生の英語への苦手意識を払拭するためカタカナによる音声教育を行った。その結果、学生の英語学習に対する態度、関心がどのように変化したかを調査した。
10. Henry James作品における経済的特異性	単著	2019年11月9日	英米文化学会第159回例会	Henry JamesのThe Wings of The Doveを代表とする後期三部作中に見られるアメリカの描写を検討することによって、世紀末のアメリカの急速的経済発展をイギリスと比較することによって、その特異性を考察した。
11. 観光ビジネス分野における効果的な中国語・韓国語の学習法の考察 —英語科目の中でのアクティビティを通して—	単著	2021年2月21日	日本リメディアル教育学会第9回関東・甲信支部大会	近年、観光分野に就職を希望する学生の多数は、英語が必要であるということも認識しつつも、韓国語や中国語に触れてみたいと感じている学生が多く、この知的好奇心を双方向（英語学習と他の外国語学習）から上手く使うことができるかを考察した。

12. 初年次キャリア教育のための同時双方型ブレイクアウトルームの活用事例	単著	2021年3月11日	UeLA&HADE合同フォーラム2020	本年度は感染症の影響により、例年とは違った初年次教育をしなければならなくなった。本稿では、新入生にとって重要であるこの時期に同時双方型でどのような工夫ができるかについて考察した。
13. 異文化理解、国際理解のための機械翻訳の可能性についてー英語を利用した多言語教育ー	単著	2021年6月5日	大学教育学会第43回大会	外国語教育や異文化との出会いは個人の意識を揺らす。外国語教育は伝統や習慣を残しながら、異文化を持つ人、事物、制度を受け入れるが、基準はあくまで日本である。一方で異文化との出会いは自社会の多くの考えや制度を世界や標準に合わせ、世界の仲間となる意識を含むのである。この2つの融合を外国語教育の観点から考察した。
14. 医歯学生のための基礎学年英語教育ーラポール形成に必要な語学力の育成に向けてー	共著	2021年6月19日	外国語メディア学会関東支部春季研究大会	コミュニケーション能力の育成は医療系の学生にとって必要不可欠の要素であり、また患者とのラポール形成は治療の一部とも考えられるようになってきている。どちらも大学も国際色豊かな地域に所在するため、病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている。今回はこのような地域で医療を目指す学生への英語教育の実践を基礎年度のカリキュラムから考察した。 出野由紀子，坂本洋子

<p>15. 歯学部初年次教育を効果的にするための事前学習 (入学前教育の方法)</p>	<p>共著</p>	<p>2021年8月18日</p>	<p>日本リメディアル教育学会16回</p>	<p>神奈川歯科大学では、幅広い分野の学生に広く門戸を開くため、一般入学試験の受験科目を2科目とすることで対応している。そのため、新入生には理科系の科目を履修していない文科系の学生も相当数在籍している。本学では初年次教育の冒頭において、高校レベルの基礎知識を学ぶ講義を設けている。その後、大学での理科系講義が始まるが、入学以前に理科系科目を履修してきた学生とそうでない学生とでは学力に大きな差がある。そこで、今年度は従来の入学前教育とは異なり、文系科目で受験した学生用に理科科目に重点を置いたカリキュラムを設置したので、その結果を分析し、報告した。 <u>出野 由紀子</u>，林田 丞太，栗本 勇輝</p>
<p>16. Curriculum Development for Language Skills for Globalization — Towards rapport building—</p>	<p>共著</p>	<p>2021年11月20日</p>	<p>歯科医学教育学会40回</p>	<p>神奈川歯科大学，獨協医科大学とも国際色豊かな地域に所在するため，病院研修においても患者との英語でのラポールが必要不可欠となっている。なぜなら，コミュニケーション能力の育成は医療系の学生にとって必要不可欠の要素であり，また患者とのラポール形成は治療の一部とも考えられるようになってきているからである。このような地域で医療を目指す学生への英語教育の実践を基礎年度と次年度のカリキュラムから考察した。 <u>出野由紀子</u>，坂本洋子</p>

17. 歯学部入学前教育と初年次教育の相関関係 —初年次理系科目のGPA分析	共著	2021年12月18日	日本リメディアル教育学会（2021東海・北陸支部大会）	入学以前に理科系科目を履修してきた学生とそうでない学生とでは学力に大きな差がある。そこで、今年度は従来の入学前教育とは異なり、文系科目で受験した学生用に理科科目に重点を置いたカリキュラムを設置したので、その結果を分析し、報告する。 出野 由紀子, 林田 丞太, 栗本 勇輝
18. 医療・テクノロジー・英語 ～世界で活躍する医療人の育成を目指して～	共著	2022年7月23日	第41回日本歯科医学教育学会総会および学術大会	様々な業種でAIによる自動翻訳技術が活用されている。医療においても、AIやロボットなどの活用により、医療の高度化が一層進み、医療と患者を繋ぐ役割を担うことが医師に求められている。医療においても大きな転換を迎えている。「治す医療」から「治し支える医療」へと転換し、また、病気の治療を目指す急性疾患よりも慢性疾患が増え、疾患と付き合っ暮らしていく人が増加する傾向にある中で、医療系大学で行われている授業の内容を紹介した。 坂本洋子, 出野由紀子
(演奏会・展覧会等) 1. 2. 3. 4.				
(招待講演・基調講演) 1. 2. 3. 4.				
(受賞(学術賞等)) 1. 2. 3. 4.				



研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1. 2. 3. 4.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1. 2. 3. 4.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1. 2. 3. 4.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1. 2. 3. 4.						
(学内課題研究(共同研究)) 1. 2. 3. 4.						
(学内課題研究(各個研究)) 1. 2. 3. 4.						
(知的財産(特許・実用新案等)) 1. 2. 3. 4.						